

## 産後の不安尺度の開発と関連要因の検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 永田, 智子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003354">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003354</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 16 号

産後の不安尺度の開発と関連要因の検討

(Development of the postpartum anxiety scale and study on associated factors)

永田 智子 (ながた ともこ)

博士 (看護学)

#### 論文審査結果の要旨

本研究の目的は、診断基準は満たさないが、生活に支障や苦痛が生じている看護介入が必要なレベルの産後の不安を測定する尺度を開発し、産後の不安の関連要因を探索することであった。

結果として、「生活・認知・感情コントロール」、「母親としての能力」、「子どもの健康と安全」、「パートナーとの関係性」、「出産後のキャリア」、「子どもへの応答性」の 28 項目 6 因子構造の産後の不安尺度が開発された。各因子の Cronbach'  $\alpha$  係数は  $\alpha = .552 \sim .880$  であり、一定の信頼性が支持され、併存妥当性、既知グループ法により妥当性が確認された。尺度合計 27 点とするカットオフ値は、AUC0.73、感度 0.70、特異度 0.63 であり、一定の診断予測能力をもつことが示された。また、産後の不安の関連要因は、精神疾患既往、産後の身体の不調、経済的不安、就業状況、パートナーの家事育児参加、相談相手、ソーシャルサポート、出産歴であることを初めて明らかにした意義ある論文である。

本論文は産後の不安と診断される以前に看護職による家庭訪問を必要とする産後の女性を事前にスクリーニングに用いるツールを作成することを試みたところに独創性がある。尺度の信頼性および妥当性について既存の尺度との併存妥当性のみならず、複数回訪問対象者群との比較による既知グループ法で確認しており、一定の信頼性と妥当性が確保されている。作成されたツールは、出産した施設の退院時や乳児健診の時に使用し、実用性の検証を重ねることで、産後の不安の早期発見のための活用や、助産学の発展に寄与することが期待される。